

language=ja&pagename=%E6%8F%9A%E8%BC%9D%E8%8D%98¶ms=35_10_14.01_N_136_57_21.26_E_region:JP-23_type:landmark)

揚輝荘

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。
出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。(2016年2月)

揚輝荘(ようきそう)は、愛知県名古屋市千種区法王町にある庭園。

目次

- 1 沿革
- 2 現存する建造物
 - 2.1 北庭
 - 2.2 南庭
 - 2.3 かつてあった建物(一部)
- 3 揚輝荘トンネル
- 4 所在地
 - 4.1 アクセス
- 5 施設利用
- 6 脚注
- 7 関連項目
- 8 外部リンク



伴華楼 (2013年7月)

沿革

元々は松坂屋の前身でもある「株式会社いとう呉服店」の初代社長・伊藤次郎左衛門祐民の別荘として、覚王山日暹寺(現在の覚王山日泰寺)に隣接する約1万坪(35,000平方メートル)の森を拓いて築かれた。1918年(大正7年)に最初の建物が移築され、修学院離宮を参考にした池泉回遊式庭園が造られるなどして、最終的に完成した昭和12-14年頃には移築・新築された30数棟があったという。大正から昭和初期にかけては皇族や華族、政治家や著名人の他に外国人も多数訪れ、国内からの寄宿生に加えて留学生の受け入れも行っていた。

1945年(昭和20年)3月24日に空襲を受けて建造物の多くが焼失。また戦中は日本軍に、戦後は米軍に接收され、その後は松坂屋独身寮として使用された。敷地の多くが開発されて庭園も南北に分断されたが、数棟の貴重な建物と庭園が残されている。2003年(平成15年)から特定非営利活動法人揚輝荘の会が管理を行っており、2006年(平成18年)度末には土地建物が名古屋市に寄贈、2008年(平成20年)5月に市の有形文化財に指定された。

現存する建造物

北庭

- 三賞亭(市指定有形文化財)^[1]

1918年(大正7年)、茶屋町本家から移築された揚輝荘で最初の建物。煎茶茶室。

- 伴華楼(市指定有形文化財)^[1]

尾張徳川家から譲り受けた茶室付き和室だが、移築にあたって鈴木禎次の設計による地階と1階洋室が増築された。なお「伴華楼」はバンガローのもじりである。

- 白雲橋(市指定有形文化財)^[1]

修学院離宮にある千歳橋を模している。

- 豊彦稲荷

昭和初期に松坂屋京都店から勧請された稲荷神で、かつての仙洞御所に置かれた御所稲荷(豊春稲荷)を本社とする。

- 野外ステージ

石張りの半円型客席が設置された円形ステージ。



白雲橋(2014年12月)

南庭

- 聴松閣(市指定有形文化財)^[1]

ハーフティンバー様式の山荘風に造られた地上3階・地下1階の建物。

- 揚輝荘座敷(市指定有形文化財)^[1]

現在の松坂屋本館の地にあった屋敷を移築したもの。移築前には一時期、川上貞奴が住んでいた。



聴松閣(2014年12月)

かつてあった建物(一部)

- 有芳亭 - 尾張徳川邸から移築した迎賓館。
- 栗廼屋 - 岐阜県細野から移築した約500年前の古民家。
- 不老庵 - 享保年間(1716-36年)に造られた茶室。
- 端の寮 - 徳川家から移築。大石内蔵助にゆかりの建物。
- 四阿 - 八丈島より移築された穀倉。
- 暮雪庵 - 本家から移築。2003年に土岐市の織部の里公園に再移築された。

揚輝荘トンネル

聴松閣とかつての有芳亭、更に現在の姫池通に面した位置に建っていた愛知舎の付近を結んだ総延長170メートルのトンネルが見つかっている。内部にはインド・イスラム様式のレリーフや壁画が残されているが、何の為に造られたかは解っていない。2007年の春から初夏にかけての一時期には、姫池通沿いの工事現場に露出したトンネルの様子を見る事が出来た。

所在地

- 北園 - 愛知県名古屋市千種区法王町2丁目5番地21^[2]
- 南園 - 愛知県名古屋市千種区法王町2丁目5番地17^[2]

アクセス

-  名古屋市営地下鉄東山線 - 覚王山駅1番出口から徒歩約10分^[2]

施設利用

- 午前9時30分～午後4時30分^[2]

- 月曜日(月曜日が祝祭日または振替休日の場合はその翌日)・年末年始^[2]

- 南園(聴松閣):一般300円・中学生以下無料^[2]

北園:無料(ただし、ガイド付き建物見学(毎週水曜日、土曜日に実施)には事前申し込みが必要)^[2]

1. ^{^ a b c d e} “揚輝荘 (<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-2-9-0-0-0-0-0-0-0.html>)”. 名古屋市 (2010年8月30日). 2013年5月25日閲覧。
2. ^{^ a b c d e f g} “利用・交通案内 (<http://www.yokiso.jp/access/>)” (日本語). 揚輝荘の会. 2016年2月7日閲覧。

- 覺王山日泰寺 - 隣接する寺院。
- 鈴木禎次 - 建築家。伴華樓の増築に関わる。
- 竹中藤右衛門 - 竹中工務店創業者。聴松閣の建築に関わる。
- 汪兆銘 - 中華民国の政治家。揚輝荘に匿う計画があった。

- 揚輝荘 公式ウェブサイト (<http://www.yokiso.jp/>)
- 揚輝荘の会 (<http://yokiso.org/>)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=揚輝莊&oldid=62776429>」から取得

カテゴリ: 名古屋市の観光地 | 千種区の建築物 | 中部地方にある日本庭園
| 区市町村指定有形文化財 | 昭和時代戦前の建築 | 西洋館 | 占領軍に接收された日本の建築物
| 移築された建築物

- 最終更新 2017年1月25日 (水) 12:23 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
- テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。